

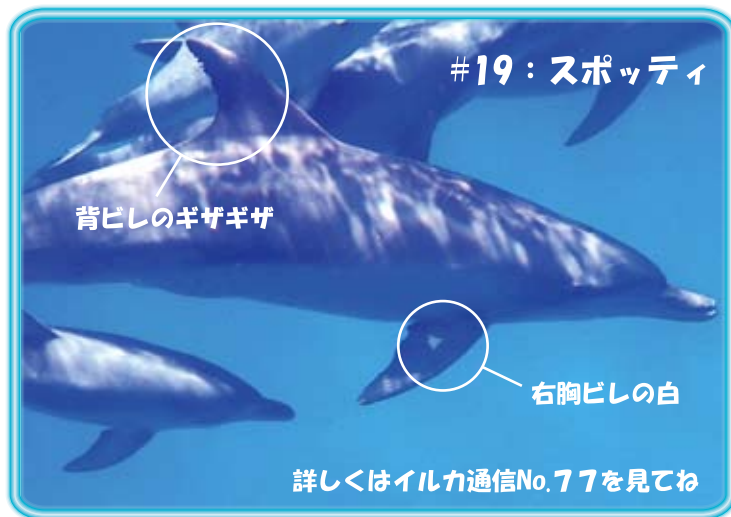
小笠原で暮らすイルカたち～#19にまた子どもが生まれました！～

2017年9月に子どもを連れて泳ぐ#19（ニックネーム：スポッティ）が確認されました。子どもの体にはハッキリとした胎児線があり、まだ生まれたばかりの赤ちゃんイルカ（新生児）であることが分かります。

母親の#19は、父島周辺でよく見られる個体で、子どもの頃からずっとイルカ調査隊が成長を見守り続けてきたイルカです（イルカ通信：No.12、19、33、50、68、77）。最初の記録は、OWAイルカ調査の始まった2003年の夏、母親（#20）に寄り添って泳いでいる姿でした。その後、2006年以降は親離れをしたのか、母親とは別行動をとる様子が

見られるようになりました。2012年8月には初めて出産し、2016年にも子どもを連れていた様子が確認されました（2016年は実の子かどうか不明）。また、そのあいだ（2013年および2015年）にはハシナガイルカの子どもの連れていたという記録もあります。

これまで何度も話題を提供してくれた#19ですが、この子どもも母親譲りの人気者になって欲しいですね。鯨二モマケズ夏ノ台風二モマケズ、すくすくと健康的に育ってくれることを願うばかりです。温かく見守っていきましょう。



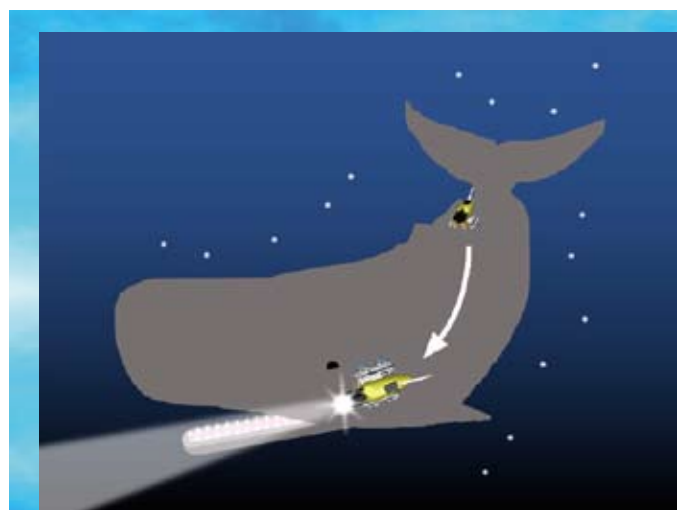
詳しくはイルカ通信No.77を見てね

撮影日：2017/9/20 写真提供：打込みゆき

マッコウクジラの採餌行動の謎への挑戦！！

マッコウクジラ vs ダイオウイカ！そんな映像をこの目で見てみたいとは思いませんか？

OWAでは、マッコウクジラが餌を捕る瞬間をカメラに収めるため、山形大学・帝京科学大学との共同研究を昨年度から開始しました。泳いでいるクジラの体にドローンでカメラを装着し、ロボット技術を使ってさらに口元まで移動させるという試みです。まだクジラに取り付ける段階には達していませんが、前段階として小笠原の海でのロボット動作実験とドローンの接近に対するクジラの反応行動調査を、9月中旬に実施しました。ロボットの動作実験では、数百メートルの深海でも動作することを確認できました。再来年までには実用化を目指しています。近い将来、夢に描いた映像をみなさんにもお届けできるよう頑張ります。



ロボットの移動イメージ 作成：土屋晃佑（山形大）